

委託事業実施内容報告書
平成28年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】
実施内容報告書

団体名: 特定非営利活動法人フィリピンナガイサ

1. 事業の概要

事業名称	BAYAN I HAN～みんなで地域をつくっていこう～
事業の目的	<p>①散在している地域の課題に対して、日本語教育体制の整備に資する人材を「発掘」し、「育成」「確保」へ繋げること。受講者は国籍を問わず、要望があれば受け入れ、地域で活躍できるバイリンガル人材をフィリピン人以外にも輩出すること。（取組1）</p> <p>②フィリピン人が多く暮らす地区において、「学卒+α」の付加価値を付けた日本語教室を開催すること。（取組2, 7）</p> <p>③「生活者として」の新しい層であるフィリピン人青年(以下、定住フィリピン人青年)の将来を見据えた支援を行うこと。（取組3, 5）</p> <p>④これまで連携してきた人や機関と協働し、培ってきたノウハウを地域に発信し、還元すること。（取組4, 6）</p> <p>⑤時流の中で求められる「生活者としての外国人」を取り巻く課題について対応するため、事業費の安定的な確保を検討していくこと。（全取組、運営委員会）</p>
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	<ul style="list-style-type: none"> ●浜松市は製造業が盛んで外国人住民が多く暮らしている。ブラジル人について多いのはフィリピン人である。フィリピン人は定住傾向にあるが、来日背景や生活環境はさまざまであること。 ●日系フィリピン人集住地区は、日本社会と接点が希薄という傾向にあること。 ●フィリピン人青年の呼び寄せが微増傾向にある。フィリピン人特有の抱える生い立ち、来日の事情がある。そのため、学びの内容をほかの教室とともにすることができないこと。 ●フィリピン人の事情に寄り添い牽引する同朋のバイリンガル講師の不足であること。 ●フィリピン人が増えたことにより、それに対応する日本社会側からの相談も増えていること。 ●日本で自立し、安定した生活を送るための社会保障制度を学ぶ機会が少ないこと。 ●長期的に運営するための資金調達、社会における付加価値の理解促進を図ること。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> ●取組1「平日 ステップアップ日本語教室」 日本語能力初級後半程度の人を対象とする。今後、「バイリンガル能力を発揮して地域で活動したい」と考えている人たちにとって、その役目を担う糸口となるような教室とする。（育成の前段階の「発掘」） ●取組2「定住フィリピン人集住地区クラス」 日本社会との接点が少ない人たちが、社会の中で安定した生活を送るために必要な日本語を指導するとともに、日本人と意思疎通を図れる場を提供する。 ●取組3「定住フィリピン人青年のための日本語教室」 社会体験を逃しているフィリピンの青年層が、日本語の教示とともに日本社会での体験（浜松市内の「人」と「場所」に繋がる）が受けられる場を設ける。 ●取組4「バイリンガル指導者・日本語ボランティアのための公開講座（国籍問わず、一般公開）」 地域全体で「生活者としての外国人」を取り巻く環境を知り、意見・情報交換を図る。その中で各々ができることを考える。 ●取組5「定住フィリピン人青年のための日本語教室 取組発表会（国籍問わず、一般公開）」 年度末に、青年たち自ら学習や活動の成果発表を行う。 ●取組6「『フィリピンをはじめとする、定住外国人青年の教育支援のあり方、将来を考える』会」（全3回） 初回は、委員会設置趣旨を共有する内容とし、残り2回は取組への評価、改善を図り、社会と青年が繋がることを検討する。 ●取組7「日本語教室+生活情報提供で『わかった、できた』へ。」（2回×2会場） 参加者（学習者、ボランティア）が日常生活において必要なテーマを抽出し、取り上げる。
事業の実施期間	平成28年5月～平成29年3月（11か月間）

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	石塚 良明	浜松市 企画庁調整部 国際課
2	市川 真弓	浜松市教育委員会 学校教育部指導課 教育相談グループ
3	清 ルミ	常葉大学 外国語学部
4	鈴木 エバ	①NPO法人フィリピンナガイサ/②静岡県立浜名高等学校/③NPO法人浜松外国人子ども教育支援協会
5	野々山 勇	人権擁護委員
6	平本 良一	平本良一行政書士事務所
7	松本 義一	①NPO法人フィリピンナガイサ/②静岡県立定時制高校非常勤講師
8	湊 健一郎	①税理士法人黎明 祖父江会計事務所/②湊健一郎社会保険労務士事務所
9	今中 秀裕	(公財) 浜松国際交流協会
10	山田 博貴	法テラス浜松
	辻村 昌樹 (オブザーバー)	浜松信用金庫 法人営業部 地域活性化課



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成28年6月22日 (水) 9:00～ 11:00	2時間	第一伊藤ビル4階 会議室	清ルミ、野々山勇、石塚良明、 市川真弓、山田博貴、平本良一、 斎健一郎、松本義一、鈴木エバ、 オブザーバー辻村昌樹	1、今年度の計画/2、バイリンガル講師の発掘、育成、確保について
2	平成28年11月2日 (水) 9:00～ 11:00	2時間	第一伊藤ビル4階 会議室	清ルミ、野々山勇、石塚良明、 市川真弓、山田博貴、平本良一、 斎健一郎、松本義一、鈴木エバ、 今中秀裕、オブザーバー辻村昌樹	1、中間報告/2、バイリンガル講師の発掘、育成、確保について/3、公開講座について/4、場の提供としての本事業の在り方
3	平成29年3月7日 (火) 9:00～ 11:00	2時間	第一伊藤ビル4階 会議室	清ルミ、野々山勇、石塚良明、 市川真弓、山田博貴、平本良一、 斎健一郎、松本義一、鈴木エバ、 今中秀裕、オブザーバー辻村昌樹	1、年度末報告/2、バイリンガル講師の育成とチームティーチングについて/3、世界の人口移動、人数動向と日本の将来を踏まえて今後の方向性を検討

(2)地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	<p><取組1, 2, 3, 4, 5, 7> ※ 学習者募集に国際交流協会、市役所国際課、JICE、近隣のNPO団体、人材派遣会社、教会、フィリピン雑貨店・レストラン等に協力を仰いだ。 ※ 取組4, 5, 7については、国籍問わず展開し、日本人参加者にも募集をかけた。広報は国際交流協会、市役所市民協働課・生涯学習課、社会福祉協議会、公民館、自治会、近隣のNPO法人、日本語教育支援団体、民間団体、これまで協力してくれたボランティアに協力を仰いだ。また、外国人雇用を検討している企業にも参加を促した。 ※ 終了後も日本語学習を継続してもらうために、ニーズにあった地域のほかの日本語教室もあわせて紹介していった。</p> <p><取組5 定住フィリピン人青年のための日本語教室 取組発表会> ※日本でも暮らすと決意し、既に仕事に就いているフィリピン人青年をロールモデルとして講師に招聘した。 ※青年が体験を通して学べる諸機関と連携を図った…遠州鉄道株式会社、ハローワーク浜松、浜松日本語学院、ビックカメラ浜松店、浜松市立中央図書館、スズキ自動車工場見学</p> <p><取組7> ①定住外国人と日本人住民の間に交流が起きる企画した…静岡県警浜北警察署 ②定住外国人が必要とする専門的な情報提供と関連用語としての日本語…労働の権利と義務(弁護士)、在留資格について(行政書士)、社会保険について(社会保険労務士)</p> <p><運営委員会> ※平成22年度～26年度の委員を一新し、新たに弁護士、税理士、社会保険労務士を加えた。 ※オブザーバーとして「はましん 地域活性課」に入っていた。</p>
------	---

本事業の実施体制	<p>●半場和美 全取組の整合性を図りながら、内部と外部(文化庁、行政、地域の関係機関、指導者、講義補助者、作業補助員等)とを調整し、連携を促進した。円滑な事業遂行のため、全体の指揮を行った。 ●松本三知代 主に取組1「平日ステップアップ日本語教室」において、学習者に日本語を教示するとともに、継続した関係を築いた。 ●松本義一 主に取組3, 5, 6「定住フィリピン人青年」に関する事業を担当し、彼らが日本社会の「人」と「場所」に繋がるような企画、運営の担当をした。また、公開講座においては「青年支援のあり方」の講師を担当し、当該地域の行政、学校関係者、支援者たちに「フィリピン人青年の特性を考慮したサポートについて」広く周知を図った。 ●鈴木エバ 定住フィリピン人と母語を介して、指導、交流を図った。</p>
----------	---

3. 各取組の報告

＜取組1＞										
取組1	取組の名称	取組1 平日ステップアップ日本語教室								
	取組の目標	①家庭の中に収まっていてあまり外で出ることが少ない主婦をはじめとする人たちに対して、同胞や社会と接点を持ってもらう。 ②滞在年数が長く、日本語の基礎力がある人を対象に、さらにブラッシュアップしてもらう。 ③国籍問わず、「バイリンガル指導者をやってみよう」という人へ裾野を広げ、地域に「バイリンガル指導者」を輩出していく。(取組2, 4, 7と連動する) ④参加者が、「日本語指導」についてイメージできるよう、当会や地域の団体が主催する教室への見学を積極的に推奨する。(他団体への見学実現については事務局がサポートする)								
	取組の内容	①家庭の中に収まっていてあまり外で出ることが少ない主婦をはじめとする人たちに対して、同胞や社会と接点を持ってもらう。 ②滞在年数が長く、日本語の基礎力がある人を対象に、さらにブラッシュアップしてもらう。 ③国籍問わず、「バイリンガル指導者をやってみよう」という人へ裾野を広げ、地域に「バイリンガル指導者」を輩出していく。(取組2, 4, 7と連動する) ④参加者が、「日本語指導」についてイメージできるよう、当会や地域の団体が主催する教室への見学を積極的に推奨する。(他団体への見学実現については事務局がサポートする)								
	<input type="checkbox"/>	空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	取組による体制整備	社会課題解決、日本語教育、多文化共生社会といった観点から、キーパーソンとなるバイリンガル人材の登用は地域振興に欠かせない。当該クラスはそのような人材を育成する前段階にあたる「発掘」の場としての機能をもつ。バイリンガル人材の不足は様々な現場で聞かれるが、短期間で見つけられるものではない。人材の確保には、能力とあわせて「本人の意欲」「家族の理解」「活動に割ける時間」など複合的に絡むこともある。そして何よりも良好な人間関係が人材確保の鍵となる。学習者の中から「同胞へ支援したいと考えている者や多文化共生社会構築に資する人材」を見出し、関係を築くことから始める。事務局と信頼関係を築き、事業趣旨への賛同を得て「継続的な関わり」につなげていく。								
	取組による日本語能力の向上	●これまで独学で日本語を学んでいた人で、中級以上にならない人のために勉強のノウハウを学べる場とする。 ●「学習ニーズ」と「できるようになる」ということをリンクして学ぶ(運用力をつける) ●取組2, 4, 7と連動し、「地域におけるバイリンガル人材に求められている資質は何か」を学び、日本語学習意欲の向上を図る。								
	参加対象者	●フィリピン人をはじめとする「生活者」としての外国人(国籍問わず) ●日本語能力初級後半～中級前半				参加者数(内 外国人数)	27人 26(人)			
	広報及び募集方法	当会ホームページ、浜松市教育委員会、浜松市国際課、近隣の国際交流協会、各NPO団体、当会スタッフの友人(クチコミ)、フィリピンレストラン、教会など、過去に当会が主催する事業でボランティアした人など								
	開催時間数	総時間48時間(空白地域 時間)								
	主な連携・協働先	静岡県、浜松市、近隣の国際交流協会、浜松市教育委員会、法テラス、行政書士、社会保険労務士、派遣会社、地域の様々な団体が行う日本語教室など								
開催場所	浜松市南部協働センター									
参加者の出身・国別内訳(人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	5	
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名		
1	平成28年5月27日(金) 9:00～12:00	3	南部協働センター	フィリピン人4、ブラジル人4、日本人1	電話で図書館 レストラン クリニックの時間や休みを確認する。	発表とフィードバック	松本三知代	半場和美、白方ジョイ		
2	平成28年6月3日(金) 9:00～12:00	3	南部協働センター	フィリピン人8、ブラジル2、日本人1	駅の近くのおすすめの店の場所を伝える。	発表とフィードバック	松本三知代	半場和美、白方ジョイ		
3	平成28年6月10日(金) 9:00～12:00	3	南部協働センター	フィリピン人6、ブラジル人3、日本人1	チラシ(薬局・スーパー)からおすすめの商品や気になる商品を見つけて情報を読みとる。	発表とフィードバック。おすすめの商品や気になる商品をクラスで紹介する。	松本三知代	半場和美、白方ジョイ		
4	平成28年6月17日(金) 9:00～12:00	3	南部協働センター	フィリピン人8、ブラジル2、日本人1	就職情報誌の求人情報を読み取る。	発表とフィードバック。興味のある求人を見つけて、理由を述べる。	松本三知代	半場和美、白方ジョイ		
5	平成28年6月24日(金) 10:00～12:00	2	南部協働センター	フィリピン人6、ブラジル人2、日本人1	不動産の情報読み取り	どちらの物件がいいか。理由を述べて意見を述べる。	松本三知代	半場和美、白方ジョイ		
6	平成28年7月1日(金) 10:00～12:00	2	南部協働センター	フィリピン人5、ブラジル人2、ブラジル人1	ホテルのチラシの情報読み取る。	発表とフィードバック。ホテルに疑問点を確認したり、要望を伝えたりする。	松本三知代	半場和美、白方ジョイ		
7	平成28年7月8日(金) 10:00～12:00	2	南部協働センター	フィリピン人5、ブラジル人2、日本人1	駅員に忘れ物の形状を伝える。	発表とフィードバック	松本三知代	半場和美、白方ジョイ		
8	平成28年7月15日(金) 10:00～12:00	2	南部協働センター	フィリピン人5	お気に入りの店やものを他と比較しながら説明する。	発表とフィードバック	平野理絵	半場和美、白方ジョイ		
9	平成28年7月22日(金) 10:00～12:00	2	南部協働センター	フィリピン人5、ブラジル人1、日本人2	チラシや商品の表示から必要な情報を読み取る。	発表とフィードバック	松本三知代	半場和美、白方ジョイ		
10	平成28年7月29日(金) 10:00～12:00	2	南部協働センター	フィリピン人5、ブラジル人1、日本人1	通信文を読み取る、前期終了式	「あげる」「もらう」「くれる」の敬語を整理/お子さんのクラス担任に電話をし、紛失したお知らせプリントをもう一度もらえないか依頼する	松本三知代	半場和美、白方ジョイ		
11	平成28年8月5日(金) 10:00～12:00	2	南部協働センター	フィリピン人7、日本人1	禁止文、命令文の整理	グループワーク。生活上のルールについてポスターを作る。	松本三知代	半場和美		
12	平成28年9月9日(金) 10:00～12:00	2	南部協働センター	フィリピン人5、日本人	説明書を読み取る、ポスター発表	ポスター制作の発表と修了式	松本三知代	半場和美		
13	平成28年9月16日(金) 10:00～12:00	2	南部協働センター	フィリピン人3、日本人1	手紙の形式、表現	手紙の書き方、挨拶文章や書式/手紙を書く相手決め(宿題:次回までに手紙を書いてくる)	松本三知代	半場和美		
14	平成28年9月30日(金) 10:00～12:00	2	南部協働センター	フィリピン人3、日本人1	返信はがきの書き方、封筒の書き方(縦書き)	「行く」「来る」「いる」の敬語整理	松本三知代	半場和美		

15	平成28年10月7日 (金) 10:00 ～12:00	2	南部協働センター	フィリピン人4、日本人1	絵を見て状況を説明する	受動態に気を付けてわかりやすく説明する。(だれが だれに どうした、なぜなら/そこで) 2.自動詞他動詞、動詞に対応する名詞 整理と確認 読(壊れる/壊す 割れる/割る 割った 折れる/折る 壊れる/壊る 壊った)	松本三知代	半場和美
16	平成28年10月21日 (金) 10:00 ～12:00	2	南部協働センター	フィリピン人3、日本人1	フィリピンの子どもの背景と支援のあり方	ビサヤ語圏の母音の発音について考察	松本三知代	半場和美
17	平成28年11月4日 (金) 10:00 ～12:00	2	南部協働センター	フィリピン人4、日本人1	フィリピンの子どもの背景と支援のあり方	ビサヤ語圏の母音の発音について考察	松本三知代	半場和美
18	平成28年11月18日 (金) 10:00 ～12:00	2	南部協働センター	フィリピン人6、日本人1	Eメールの書式、読解	Eメール文章に出てくる漢字や意味がわからないときの対処の仕方	松本三知代	半場和美
19	平成28年11月25日 (金) 10:00 ～12:00	2	南部協働センター	フィリピン人6、日本人1	新聞に書かれている情報を読み取る	新聞、ウェブ情報を読む	松本三知代	半場和美、 白方ジョイ
20	平成28年12月9日 (金) 10:00 ～12:00	2	南部協働センター	フィリピン人4、日本人1	グラフを読み取る	円グラフ、棒グラフ、折れ線グラフなど、それぞれのグラフの違いやメリット	平野理絵	半場和美
21	平成28年12月16日 (金) 10:00 ～12:00	2	南部協働センター	フィリピン人4	文章を読み、わかりやすいグラフを書いてみる	問題を解いた後、全員で共有・発表	平野理絵	半場和美
22	平成28年12月23日 (金) 10:00 ～12:00	2	南部協働センター	フィリピン人6、日本人1	復習、終了式	これまでの復習、終了式	松本三知代	半場和美

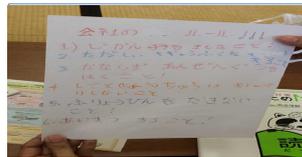
(1) 特徴的な活動風景 (2~3回分)

※2回分を詳細に記載。また、活動内容を示す写真を本報告書に添付

○取組事例①

【後期第1回 28年8月5日】
「トリセツ(家電の取扱説明書)」から、「注意、命令」「禁止」の表現を学んだ。
そのあと、「注意事項や禁止文」が書かれている身近な場面を想定してポスターづくりに挑戦した。

「職場のルール」を呼びかけるグループ、
「自治会のごみの出し方」を呼びかけるグループ、
「交通安全」を呼びかけるグループ・・・



○取組事例②

【後期第5回 28年10月7日】
小中学校で支援にあたっている方から、「受け身と使役について、もっと詳しく勉強したい」という、現場に即した大事な要望があった。

たとえば学校で子どものケンカがあったとき、学校で通訳する際には、「だれが殴ったのか?」「だれが殴られたのか?」「だれが怒っているのか?」「だれが怒らせたのか?」

状況を担任や保護者に説明する際に、受け身や使役は非常に神経をつかう。
こうした学習者からの「持ち寄り」が、クラス全員の学びに変わった。



(2) 目標の達成状況・成果

本クラスは、
★「まだ仕事として通訳、翻訳、相談業務をすることはできないけれども、いずれやってみたい」という人
★すでに小中学校をはじめ、いろいろな現場で活躍している人
が、読解を中心に学んでいる。上記がクラスに混在することで、まだ現場を持っていない学習者たちにとっては、現場で必要とされる人材、能力を垣間見ることができた。また、クラスでは現場に出ている先輩学習者たちからの実践的な学習ニーズに応じることができ、学習者が課題を共有し、取り組むことができた。(たとえば上述の「受け身、使役」「自動詞、他動詞」。また、「ピサヤ語圏に見られる母音発声の特色と、その指導について」も同国同士の学習者が多く集まったからこそ、学習項目に取り上げることができたテーマでもある)
その他、アンケートについては別途提出済。

(3) 今後の改善点について

・学習者数の確保が難しい...すでに様々な現場で忙しく活躍されている学習者たちのスケジュール調整が非常に難しかった。学習者個人に調整を働きかけるよりは、雇用主へ勉強の時間確保について理解をいただくなど、事務局としても対応の間口を広げる検討が必要である。

・クラスは口コミによるところが大きく、フィリピンの学習者以外への広がりが難しかった。いっぽうで、本クラスは継続した参加に結びついている学習者が多かったのも特徴の一つとして挙げられる。これには「講師と学習者、事務局の三者の信頼関係」によるところが大きい。爆発的に参加人数を増やすのではなく、学習者個人の学びの質を充実させることで満足度を上げ、少しずつ確実に人数を伸ばしていくことを目指す。これにより、安定した人材を地域に排出できればよい。

<取組2>

取組2	取組の名称		取組2 定住フィリピン人集住地区のための日本語教室							
	取組の目標		①「日本語教室に行ったことがない」「地域に日本語教室があるのを知らない」「自分の生活リズムとニーズに合う教室がない」という人たちの学習意欲を引き出し、継続した日本語学習が行えるように促す(修了後は地域のほかの日本語教室も紹介する)。 ②バイリンガル指導者による教室運営能力を高める。 ③クラスは、地域の日本人住民の生涯学習の場としても役割を担う。							
	取組の内容		●「ひらがな・カタカナの読み書きを学びたい」という学習ニーズに対応することに加え、日常会話、生活に即した日本語を教示する。(テーマは「文化庁『生活上の行為の事例』を参考にする) ●「おしゃべりタイム」の導入 協力してくれる地域のボランティアを「おしゃべりボランティア」と称する。バイリンガル指導者が、学習者と「おしゃべりボランティア」が日本語で意思疎通を図るためのファシリテーターを務める。							
	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
	<input type="checkbox"/> 取組による体制整備		「おしゃべりタイム」において、近隣住民と交流を深め、協働する。 ①教室内におけるコミュニケーションの促進を図る。 ②「おしゃべり」の中から、学習者の来日背景や生活状況、学習ニーズを知る。 ③「おしゃべり」の中から、アイデアや改善・解決案が出ることを期待している。 ④「おしゃべりボランティア」が「さいさいなことから在住外国人に聞かれる」ということを発見できる場の提供をする。「交流を教室の外へ広げていく」可能性を持っている。							
	取組による日本語能力の向上		●座学では学べない、そして市販テキストにはない付加価値をつけた教室運営を目指す。(「日常生活に即した日本語」を、優先度の高い順に提示する) ●母語を通して、細かい解説を受けることが出来る。(短時間で必要なことをしっかり学べる) ●「おしゃべりボランティア」の存在により、文字学習のサポートを細やかにしてもらえる。 ●「おしゃべりボランティア」と「おしゃべり」することで、日本語を聞いて話す機会を得る。							
	参加対象者		日本語能力が入門・初級の定住フィリピン人	参加者数 (内 外国人数)		100人 75(人)				
	広報及び募集方法		当会ホームページ、浜松市教育委員会、浜松市国際課、近隣の国際交流協会、各NPO団体、当会スタッフの友人(クチコミ)、フィリピンレストラン、教会など、過去に当会が主催する事業でボランティアした人など							
	開催時間数		総時間 32時間(空白地域 時間)							
	主な連携・協働先		静岡県、浜松市、近隣の国際交流協会、浜松市教育委員会、法テラス、行政書士、社会保険労務士、派遣会社、地域の様々な団体が行う日本語教室など							
開催場所		浜松市 南部協働センター								
参加者の出身・国別内訳(人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
		75								
		日本国25名								

実施内容

回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年6月5日 (日) 13:30 ~ 14:00	2	浜名協働センター	フィリピン人25、日本人3	自己紹介	日本語で挨拶や趣味など、初対面の人と話す練習	鈴木エバ	高井マリ 半場和美
2	平成28年6月19日 (日) 13:30 ~ 15:30	2	浜名協働センター	フィリピン人19、日本人5	学校について	日本の学校の行事や慣習、欠席連絡の仕方	鈴木エバ	高井マリ 半場和美
3	平成28年7月3日 (日) 13:30 ~ 15:30	2	浜名協働センター	フィリピン人16、日本人4	住所と名前	自宅住所を覚える、名前をカタカナで書く	鈴木エバ	高井マリ 半場和美
4	平成28年7月17日 (日) 13:30 ~ 15:30	2	浜名協働センター	フィリピン人18、日本人4	病院	～科、受付や診察室での簡単な会話	鈴木エバ	高井マリ 半場和美
5	平成28年7月31日 (日) 13:30 ~ 15:30	2	浜名協働センター	フィリピン人6、日本人2	葬祭について	日本、浜松の葬祭の慣習について	鈴木エバ	高井マリ 半場和美
6	平成28年10月9日 (日) 13:30 ~ 15:30	2	浜名協働センター	フィリピン人10、日本人4	防災	防災グッズを確認する/防災に関する用語を学ぶ	鈴木エバ	高井マリ 半場和美
7	平成28年10月23日 (日) 13:30 ~ 15:30	2	浜北文化センター	フィリピン人9、日本人4	復習、終了式	復習テスト、終了式	鈴木エバ	高井マリ 半場和美
8	平成28年10月31日 (日) 13:30 ~ 15:30	2	長上協働センター	フィリピン人9、日本人2	自己紹介	日本語で挨拶や趣味など、初対面の人と話す練習	鈴木エバ	高井マリ 半場和美
9	平成28年11月6日 (日) 13:30 ~ 15:30	2	長上協働センター	フィリピン人9、日本人5	住所と名前	自宅住所を覚える、名前をカタカナで書く	鈴木エバ	高井マリ 半場和美
10	平成28年11月20日 (日) 13:30 ~ 15:30	2	長上協働センター	フィリピン人6、日本人5	病院	～科、受付や診察室での簡単な会話	半場和美	高井マリ
11	平成28年12月4日 (日) 13:30 ~ 15:30	2	長上協働センター	フィリピン人10、日本人4	イミグレーション	在留資格延長や、家族の呼び寄せに必要な書類を書く練習、情報提供	鈴木エバ	高井マリ 半場和美
12	平成28年12月18日 (日) 13:30 ~ 15:30	2	長上協働センター	フィリピン人6、日本人2	学校について	日本の学校の行事や慣習、欠席連絡の仕方	鈴木エバ	高井マリ 半場和美
13	平成29年1月15日 (日) 13:30 ~ 15:30	2	長上協働センター	フィリピン人11、日本人3	税金について	12月3日の公開講座で学んだことを学習者に共有	鈴木エバ	高井マリ 半場和美
14	平成29年1月29日 (日) 13:30 ~ 15:30	2	長上協働センター	フィリピン人6、日本人5	区役所について	区役所で自分の行きたい課を訪ねる口頭練習	鈴木エバ 村松正利	高井マリ 半場和美
15	平成29年2月19日 (日) 10:00 ~ 12:00	2	長上協働センター	フィリピン人13、日本人5	日本の料理を学ぶ	親子丼を作る	鈴木エバ	高井マリ 半場和美
16	平成29年2月19日 (日) 13:30 ~ 15:30	2	長上協働センター	フィリピン人7、日本人9	ワーク、復習テスト、終了式	親子丼に関するワーク活動(書く、話す)、復習テスト、終了式	鈴木エバ	高井マリ 半場和美

(1) 特徴的な活動風景 (2～3回分)

○取組事例①

【浜北クラス第3回 28年7月31日】

3回目を終えたところで、浜北地区に暮らすフィリピン人が33名在籍していた。このうち、ほとんどの学習者は、ひらがな・カタカナ・漢字の読み書きへのニーズが大変強くある。学習者に、「実際に読み書きができなくて困っている場面」を聞いたところ、「申込書を書かざるを得ない状況のときに困る(市役所、子供の学校関係の書類、銀行開設、郵便局など)」とのこと。

そういったときに必ず書かなければならないのは、まず「名前」と「住所」である。そこで、「浜松市浜北区」の読み書きを身近なエピソードを盛り込んで学んだ。学習者の人数が多いため、ボランティアさんが一人ずつの進度に付き添い、全員が読み書きできるようになるまで協力してくれた。



○取組事例②

【東区第6回 28年12月18日】

学校について。とくに「日本語で欠席連絡ができるようになること(電話をかける)」は、子どものいる保護者だけでなく、仕事をしている方も「会社に欠勤の連絡を入れる」練習に繋がった。

学習者から、「体がなんとなく全部痛いとき、何と言いますか」という質問があった。

「体が全部痛いのので休みます」というのは事実だが、「体調が悪いので休みます」という表現と比べると、与える印象の違いはどうだろうか。

言葉は間違っていないけれども、相手に与える印象を考えて伝えるのがコミュニケーションの難しいところである。こうした微妙なニュアンスの違いは、母語を通じた日本語教室で共有できる強みでもある。



(2) 目標の達成状況・成果 ※検証方法(アンケートや評価等)も含めて具体的に記載すること。

・学習者受け入れに際して、初回アンケートで基本調査を行った。(別途提出済)

・アンケートにおいて「日本での暮らしについての満足度」について「おおいに満足」から「おおいに不満」まで5段階で聞いたところ、9割以上の方から「おおいに満足」という回答が得られた。この理由、背景には「治安が良い」「仕事がある」「町がきれい」などが挙げられたが、特記すべきものに「日本人はルールやマナーを守るから」というものがあった。こうしたコメントは今後、私どもがフィリピン人と日本人の交流を後押しする活動をする際にも大変貴重なものである。

(3) 今後の改善点について

滞在年数の長い学習者であっても、意思疎通が十分にできるほど日本語能力を有していない人もいる。そうすると、仕事に不安定となり生活でも苦勞することになる。本クラスは参加人数から見ても「日本社会の入口」としての機能は十分果たしているため、今後はこれらの人を次のところへ具体的に橋渡ししていくことを検討する必要がある。多くの人たちが集まるので、今後も皆の声を束ねて事業展開へ活かすと同時に、社会へ発信していくことに努める。

＜取組3＞										
取組3	取組の名称		「定住フィリピン人青年のための日本語教室」							
	取組の目標		社会体験を求めているフィリピンの青年層が、日本語の教示とともに日本社会での体験(浜松市内の「人」と「場所」に繋がることが受けられる場を設ける。							
	取組の内容		<p>呼び寄せにより来日したフィリピン人青年に、日本語教室を実施する。日本語教室を通して生活に必要な日本語と生活情報を教授し、更に日本語教室で学んだことを体験する機会を設置し日本での生活のスタートを支援する。</p> <p>1. 授業構成 オリエンテーションや取組5「定住フィリピン人青年のための日本語教室 取組発表会」準備の他、下記トピックを実施。</p> <p>第1週目 日本語教授 2時間 第2週目 日本語教授 2時間 第3週目 体験授業(社会見学)3時間 第4週目 復習(まとめ) 2時間</p> <p>2. 各月のトピック</p> <p>5月 オリエンテーション ・生徒調査 ・申込書の書き方 ・日本語での挨拶の仕方</p> <p>6月 「公共交通機関を使ってみよう」(協力:遠州鉄道(株)、浜松国際交流協会) ・異文化・社会教育: 乗り物、文化の違い ・日本語教授: バス、電車で利用する日本語 ・体験授業準備: 鉄道電子マネーカード(ナイスバスクード)の申込み方、バス・電車の乗り方 ・体験授業: 浜松国際交流協会までバスで行く。(鉄道電子マネーカード申込み、バス・電車の乗車を体験する)</p> <p>7月&8月 「進路(進学・就職)」(協力:ハローワーク浜松) ・異文化・社会教育: 日本での進路(進学・就職)について考える。教育制度の違い、就職活動の違い ・日本語教授: 就職に必要な知識・日本語と求人雑誌・求人票の見方 ・体験授業準備: ハローワークの利用・登録の仕方(申込書の記入方法) ・先輩後輩交流会の実施: 進学・就職について経験者に聞く ・体験授業: ハローワークに登録しよう</p> <p>9月 「自分にあった日本語教室を知ろう」(協力:浜松日本語学院、浜松国際交流協会) ・異文化・社会教育: 浜松市の日本語教室を知る ・日本語教授: 日本語教室を紹介するチラシの日本語、自分の理想の日本語教室のチラシを作成し、発表する。 ・体験授業準備: 日本語教室見学申込みの電話の仕方、見学に行きたい日本語教室のアンケート実施 ・体験授業: 日本語教室(日本語学校)を見に行く</p> <p>10月 「お得に買い物しよう」(協力:ビックカメラ浜松店) ・異文化・社会教育: ポイントカードや値引きを知ろう。 ・日本語教授: 実際のチラシの日本語、商品を探すときの日本語会話 ・体験授業準備: 店内での注意事項・マナーの教授、タスク発表 ・体験授業: 指定された商品を実際に購入し、ポイントカードも作成する</p> <p>11月&12月 「旅行計画を立てよう」(協力:浜松市立図書館) ・異文化・社会教育: 日本の地理、観光地を知る ・日本語教授: 自分自身で旅行プランを作成し、発表する ・取組5「定住フィリピン人青年のための日本語教室 取組発表会」のためのポスター作成 ・体験授業準備: 旅行プランを作成するため、図書館で参考図書を探す。図書館利用方法 ・体験授業: 参考図書を借りる(図書カードを作る)</p> <p>1月&2月 「お金について考えよう」 ・異文化・社会教育: ライフプランニング、生涯にかかるお金。キャリアデザイン ・日本語教授: 自己のライフプランニングを考え、発表する ・体験授業準備: 銀行口座の作り方 ・体験授業: 銀行窓口でのやり取りを教室内で疑似体験</p> <p>3月 「工場見学に行こう」(協力:スズキ歴史館) ・異文化・社会教育: 車が1台できるまでを考える ・日本語教授: 「開発」「生産」「販売」という車生産に関する仕事の言葉 ・体験授業準備: 各段階における仕事(職業)に何があるかを考え、調べる ・体験授業: 工場見学に行き、タスクシートを完成させる</p>							
	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
	取組による体制整備		<p>体験学習(社会見学)の実施による協力者・協力団体との連携により以下の体制整備を目指す。</p> <p>1. フィリピン人青年の存在を社会にアピールし、日本語支援の必要性を顕在化する。 2. 来日後のフィリピン人青年と既に定住しているフィリピン人青年の交流の機会を設置する。 3. 社会見学(体験学習)の必要性を社会に訴え、外国人生活者の日本語教育の一環として協力者を募る。</p>							
	取組による日本語能力の向上		<p>●来日直後に必要となる日本語に優先順位をつけてカリキュラムを組む。これにより、フィリピン人青年たちは実生活の中において「すぐに使い、実践することができる」ことができる。</p> <p>●日本での生活をスタートするために必要な知識や情報を、媒介語を通じて提供する。これによりフィリピン人青年たちは、他にはどこでも学べない細かいニュアンスを掴み、体得できる。</p> <p>●カリキュラムはテーマに沿って、体験学習型の社会科見学を取り入れる。これにより、フィリピン人青年たちは座学の日本語学習だけでは学べない疑似体験をすることができる。この体験が自信につながり、実生活においても行動に活かすことができる。</p>							
	参加対象者		16歳～20歳のフィリピン人青年			参加者数 (内 外国人数)		延参加者数399人 (399人)		
	広報及び募集方法		ハイスニュース、ナガイサHP、ナガイサ広報誌、磐田国際交流協会広報誌、新聞社など							
	開催時間数		総時間 80時間(空白地域 時間)		通常授業 2時間 × 31回 体験授業 1回 3時間 × 6回					
	主な連携・協働先		遠州鉄道(株)、ハローワーク浜松、ビックカメラ浜松店、浜松日本語学院、浜松市立図書館、スズキ歴史館							
開催場所		浜松市南部協働センター、福祉交流センター、ザザシティ浜松								
参加者の出身・国別内訳(人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
		<p>その他の国は、国名と人数を記載してください。 ○○国(△人)、</p>								

実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年5月28日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	12	オリエンテーション	①教室の紹介 ②名前・住所の書き方	松本義一	高井マリ
2	平成28年5月29日 (日) 13:30~15:30	2	南部協働センター	12	オリエンテーション	①来日直後のフィリピン青年のニーズ・レディネス調査 ②6月トピック「公共交通機関」について	松本義一	高井マリ
3	平成28年6月4日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	12	6月トピック「公共交通機関」 電車でU-ToCに行く方法を学ぼう	①日本の公共交通機関。 ②電車で行く主要施設を知る。 ③U-ToCへの行き方を学ぶ。	松本義一	高井マリ
4	平成28年6月11日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	12	遠鉄バスでHICEに行く方法を学ぼう	①浜松市内のバス(遠鉄バス・くるる) ②バスで行けるところを知る。 ③HICEへ行く方法を学ぶ。	松本義一	高井マリ
5	平成28年6月12日 (日) 13:30~15:30	2	南部協働センター	12	窓口でナイスバス(電子マネーカード)を作ろう	①ナイスバス(電子マネーカード)について ②窓口での申込方法(記入方法、日本語会話) ③体験授業の準備について	松本義一	高井マリ
6	平成28年6月18日 (土) 13:30~16:30	3	南部協働センター	12	体験授業「バスに乗ってHICEに行こう」	①ナイスバスを作る ②バス乗り場を探して、バスに乗る ③目的地到着後、帰りは電車で帰る。	松本義一	高井マリ
7	平成28年6月25日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	10	体験授業の振り返り	①体験授業で探した「わからない単語」共有 ②体験して疑問に思ったことを共有	松本義一	高井マリ
8	平成28年6月26日 (日) 13:30~15:30	2	南部協働センター	10	7月トピック「進路(進学・就職)」 オリエンテーション	①申込書の書き方復習 ②7月トピック「進路(進学・就職)」について	松本義一	高井マリ
9	平成28年7月2日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	12	日本での進路(進学・就職)について考えよう	①日本の教育制度について。 ②仕事を探す方法として何があるか？ ③進学と就職どちらがいいのか？を考えよう	松本義一	高井マリ
10	平成28年7月9日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	12	就職に必要な知識と求人票の見方	①求人票の見方を学ぶ。最低賃金などの知識 ②フィリピン人が活躍できる仕事とは何かを考える。	松本義一	高井マリ
11	平成28年7月16日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	13	ハローワークとは何かを知ろう	①ハローワークとは何か。 ②利用方法 ③申込書の記入方法	松本義一	高井マリ
12	平成28年7月23日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	16	先輩後輩交流会、体験授業準備	①先輩から進学・就職の話を聞こう ②25日体験授業の準備について	松本義一 リチャード ジェイコブ 石松ともみ	高井マリ
13	平成28年7月25日 (月) 14:00~17:00	3	南部協働センター	10	体験授業「ハローワークを利用してみよう」	①ハローワークから利用方法の説明 ②ハローワークで実際に仕事を探す方法 ③給食申込書記入、面接の練習	松本義一 平原マリアエテル	高井マリ
14	平成28年8月27日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	5	体験授業の振り返り、次回オリエンテーション	①ハローワーク体験で学んだことを共有 ②9月トピック「自分に合った日本語教室を知ろう」について	松本義一	高井マリ
15	平成28年9月3日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	12	9月トピック「自分に合った日本語教室を知ろう」	①浜松市内で行われている日本語教室のチラシをみよう。 ②チラシの見方、チラシの日本語(初級レベル、会話などの日本語)	松本義一	高井マリ
16	平成28年9月10日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	13	見学申込電話の掛け方	①申込方法を知る ②電話での見学申込方法 日本語会話 ③見学先アンケート-浜松日本語学院	松本義一	高井マリ
17	平成28年9月17日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	11	プロジェクトワーク①「自分自身の理想の日本語教室を作ろう」	①基本チラシを見て、作成の裏側説明 ②自分が何を勉強したいかを考えながら、理想の教室チラシを作成する ③理想の日本語教室チラシの発表	松本義一	高井マリ
18	平成28年9月20日 (月) 14:00~17:00	3	南部協働センター	4	体験授業「日本語教室を見に行こう」	①浜松日本語学院を見学	松本義一	高井マリ
19	平成28年9月24日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	11	10月トピック「お得に買い物しよう」 オリエンテーション	①10月トピック「お得に買い物しよう」について ②チラシを見て、知っている日本語、知らない日本語を探す。一調べ、皆で共有	松本義一	高井マリ
20	平成28年10月15日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	12	お得な買い物について考える	①ポイントカードとは ②値引き、送料無料、税込・税抜きなど知っておくと得する日本語	松本義一	高井マリ
21	平成28年10月22日 (土) 13:30~16:30	3	南部協働センター	16	体験授業「家電量販店でお得に買い物する」	①体験授業時のタスク発表 グループで商品探し購入する ②ポイントカードを作る	松本義一	高井マリ
22	平成28年11月5日 (土) 13:30~15:30	2	福祉交流センター	14	体験授業の振り返り	①どんな日本語を話したかを共有 ②わからない日本語を共有 ③11月トピック「旅行計画を立てよう」について	松本義一	高井マリ
23	平成28年11月12日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	14	日本旅行	①講師作成の旅行計画表を見ながら、旅行の話 ②自分が行きたい旅行先を検討する。 ③次回、旅行計画を立てることを伝える	松本義一	高井マリ
24	平成28年11月26日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	12	旅行計画を考えよう	①旅行計画作成シートの説明 ②旅行計画作成シートを完成させる ③旅行計画の発表練習	松本義一	高井マリ
25	平成28年12月3日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	10	ポスター作成	①旅行先の探している生徒同士でグループになり、一つの旅行計画を大きなポスターにまとめる。 ②体験授業の説明(参考図書を借りるために、図書館を利用する。)	松本義一	高井マリ
26	平成28年12月10日 (土) 13:30~16:30	3	南部協働センター	11	参考図書を借りに行こう	①浜松市立図書館へ体験授業 ②タスクシートの完成 ③図書カードの作成と利用方法	松本義一	高井マリ
27	平成28年1月7日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	8	1月&2月トピック「お金について考えよう」 オリエンテーション	毎週土曜日に使っているお金を計算	松本義一	半場和美
28	平成29年1月14日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	8	1月&2月トピック「お金について考えよう」	日本での一人暮らしの費用	松本義一	高井マリ
29	平成29年1月21日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	7	ライフプランニング	①自分のライフプランを表にまとめる ②ライフプランで必要となる費用を計算する	松本義一	高井マリ
30	平成29年1月28日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	10	キャリアデザイン	①将来の職業を考える ②その職業につくまでの過程を調べよう ③将来デザインシートにまとめよう1回目	松本義一	高井マリ
31	平成29年2月4日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	8	お金を管理する	①郵便局の仕事とは ②銀行口座を開設するには ③将来デザインシートにまとめよう2回目	松本義一	高井マリ
32	平成29年2月18日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	9	ゆうちょ銀行で口座を開設しよう。	①将来デザインシートの発表 ②ゆうちょ銀行で口座を開設する際のやりとり(日本語会話)	松本義一	高井マリ
33	平成29年2月25日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	9	3月トピック「工場見学に行こう」 オリエンテーション	①ゆうちょ銀行口座開設時のロールプレイ ②1台の車を作って売るとはどんな仕事が必要か考えよう。開発、生産、販売	松本義一	高井マリ
34	平成29年3月4日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	8	仕事と職種	①車を作って売るとはどんな仕事に置き換えよう。例。ペイントをする=塗装、車のデザインを作る=設計、など ②体験授業の説明	松本義一	高井マリ
35	平成29年3月11日 (土) 13:30~16:30	3	南部協働センター	12	体験授業「スズキ歴史館に行こう」	①体験授業タスクシートを完成させる ②歴史館で「開発、生産、販売」の流れを知る	松本義一	高井マリ
36	平成29年3月18日 (土) 10:00~12:00	2	ザザシティ浜松	11	体験授業の振り返り	①タスクシートの答え合わせ ②体験授業の復習	松本義一	高井マリ
37	平成29年3月18日 (土) 13:30~15:30	2	ザザシティ浜松	11	1年間を振り返ろう	①1年間の授業についてアンケート実施 ②終了式	松本義一	高井マリ

(1) 特徴的な活動風景 (2~3 回分)

○取組事例①

【第6回 平成28年6月18日】体験授業「バスに乗ってHICEに行こう」
6月トピック「公共交通機関」は下記の目的を達成できるように考えられている。目標A, B, Cを実施した上でDの体験学習を実施した。

●目的：1人で公共交通機関に乗れるようになる。全5回

●副次的目的：
A 浜松市の公共交通機関の種類を知る。
B 浜松市内の地理を知る。どこに何があるか。～区に～がある。
C 目的の場所に行くには、どの公共交通機関を使えば行けるかわかる。
D 公共交通機関を利用し、目的地に行ける。(日本語学習+体験授業)

●目標(何をすれば副次的目的を達成できるとするか)：
A- 浜松市にある公共交通機関を紹介する。JR、遠州鉄道、遠鉄バス
B- 浜松市内の主要施設(フィリピン人青年に關係する)を知る。HICE、U-ToC、イオン、市役所、名古屋入管などへ行くための乗り場も。
C- JR、遠州鉄道、遠鉄バス、それぞれの利点を教える。
D- 公共交通機関を利用する際に必要な単語を学ぶ体験授業を実施し、学んだことを活かし、利用する。

●必要な準備：
・遠鉄への協力依頼(土曜日は断られる可能性もある?!)
・遠鉄バスカウンターで使われている日本語や看板の調査
・実際の写真
・バスの行き先(今後も関係のあるところがよいが遠すぎても良くない。)

●授業スタイル：
・教授言語：日本語と英語、タガログ語のミックス
・表記：日本語とローマ字のミックス
・生教材を多く使用する。

●ファイルとノートの利用方法
・ファイルには体験授業で必要となる単語のヒントを載せる。写真付き。
＝ファイルがあれば、自分一人で体験授業で実施したことを行えるよう。という姿が理想。
・ノートには重要単語や図、表などを記入し、持ち帰ってノートを見て活用できるようにする。

●実施内容【第6回 平成28年6月18日】体験授業「バスに乗ってHICEに行こう」
・体験授業でのタスクシート配布
・タスク①ナイスバス(電子マネーカード)を遠鉄窓口で作成し、チャージすること
タスク②15:00までにバスでHICEまで行くこと
タスク③体験授業中にわからなかった日本語(わからなくて困った)を10個書き写す



○取組事例②

【第21回 平成28年10月22日】体験授業「家電量販店でお得に買い物する」
10月トピック「お得に買い物しよう」は下記の目的を達成できるように考えられている。目標A, B, Cを実施した上でDの体験学習を実施した。

●目的：お得な買い物ができる 全4回

●副次的目的=どんな力が身につけば目的を達成できるのか。
A チラシを読むことができる。
B 日本のサービスを知る。ポイント制度
C 買い物に付随するお金を知る。税金、送料など
D 実際に商品を購入する(体験授業)

●目標(何をすれば副次的目的を達成できるとするか)：
A- チラシに使われている日本語の学習 9/24&10/15 生徒自身にチラシを見てもらい、「知っている単語」「知らない単語」を探す。
B- 日本とフィリピンでの買い物の違いで特徴的なものを伝える。10/15
ビックカメラのポイント制度を取り上げ、「ポイントカード」を知る。
日本はどこに行っても「ポイントカード」があるが、フィリピンはSMなどの大きなデパートのみ。
C- 日本の買い物時に関係するお金=消費税を知る。10/15
消費税は8%。送料もかかる。ラッピング費は無料など
D- 体験授業でポイント制度を考えながら、商品を購入する練習。会計も自分ですること。

●必要な準備：
・実際のチラシ
・生徒の知らない日本語リスト 生徒が知らない日本語を探した後にそれをまとめて作成
・ビックカメラとの交渉

●実施内容【第21回 平成28年10月22日】体験授業「家電量販店でお得に買い物する」
・体験授業でのタスクシート配布
・タスク①グループになり、指定された商品を探し購入する。
タスク②ポイントカードを作る
タスク③体験授業中にわからなかった日本語(わからなくて困った)を10個書き写す
タスク④役に立った日本語会話をメモする



(2) 目標の達成状況・成果 ※検証方法（アンケートや評価等）も含めて具体的に記載すること。

掲げた取組目標「社会体験を逃しているフィリピンの青年層が、日本語の教示とともに日本社会での体験（浜松市内の「人」と「場所」に繋がる）が受けられる場を設ける。」に対する成果として、以下の点が挙げられる。

1. 日本社会での体験が受けられる場の創出

全7トピック中、6箇所で開催体験授業を実施することができた。体験授業の中では、「自分でできることを増やす」という目標を掲げ、各体験授業ごとに生徒へのタスクを設け、これまで学んできた日本語や知識・情報を元に主体的にチャレンジする体験を実施することができた。また、「～を作る。」というタスクを多く設けたことで、目に見える成果として各学習者が自分で行ったことを実感できた。例えば、ポイントカードや図書館利用者カード、電子マネーカードを作る。旅行計画を立てる。などである。

2. 浜松市内の「人」と「場所」に繋がる機会の創出

上記の体験授業は今後フィリピン人青年が浜松市で生活する上で利用する機会が多い場所を選び実施した。体験事業によりフィリピン人青年とそこで働く人々や場所との繋がりを創出できた。また、家電量販店や鉄道会社などの民間企業にフィリピン人青年の存在をアピールすることができ、今後彼らが生活者＝消費者となることを伝えることができた。

来日直後のフィリピン人青年と同じ経験をした先輩フィリピン人をゲストに呼び、話し合う機会を設けたことで、自分自身の将来を考える機会を創出した。

3. 学習者のアンケート結果と出席率

アンケート結果から、学習者は「プログラムに満足しており、日本での生活に役立った。」と考えていることがわかった。これについては高い出席率からも見て取れる。全37回の参加者延人数は399人であり、1回の授業におよそ11名が参加していたことになる。1年間を通じた在籍者数が約15名であったことから、年間出席率は約72%である。学習者のニーズとレディネスを汲み取ったカリキュラム編成が学習者の満足度につながり高い出席率になったと考えられる。

(3) 今後の改善点について

1. 体験授業場所の選定

当初計画していた体験授業場所と実際の体験授業場所は大きく異なった。これは学習者のニーズとレディネスを分析した結果の変更であり、変更により授業内容は学習者にとって満足いくものとなったとアンケートから読み取れる。しかしながら、変更した結果、体験授業の許可を得られず体験授業が実施できなかった月があった。次年度は、今年度の学習者ニーズ・レディネスを参考にし、体験授業を必ず実施できるように計画を立てていく。

2. 学習者の自律学習へのニーズへの対応

1年間を終える頃から、学習者から「これからも日本語の勉強を続けていきたい。」「もっと勉強したい。」という声がよく聞こえるようになった。彼らは仕事をしている者が多いため、自分の隙間時間を利用して学習したいという。このようなニーズに対して的確なアドバイスを与えられなかった。この反省を次年度に活かしていきたい。

＜取組4＞										
取組3	取組の名称		バイリンガル指導者・日本語ボランティアのための公開講座							
	取組の目標		<p>フィリピン人をはじめとする「生活者としての外国人」の来日背景、生活状況を、当事者である外国人を含めた地域住民と共有する事業とする。そのことにより、各々が「私にできること」を考えるきっかけを提供する。「『生活者としての外国人』のための抛り所、ささえあいは、ささやかな気持ちから始められる」ということを事業全体を通して当該地域に発信することを目的とする。</p> <p>①日本語教室の運営、構成に活かす。</p> <p>②フィリピン人をはじめとする「生活者としての外国人」が、日本で安定した生活を送るためにできることを、多角的に捉えて考える。</p> <p>③本取組自体が参加者同士の交流、意見交換、情報共有の場となることをめざす。</p>							
	取組の内容		<p>①社会調査の手法から考える～「生活者としての外国人」のニーズを基盤とした地域日本語教育の展望～ 講師：高畑幸氏（静岡県立大学 国際関係学部 准教授／社会調査士（一般社団法人 社会調査協会）） 外国人が日本で生活する上での悩み、要望は散在しており多岐に渡る。これらの把握と、本質を見定めた上で地域に資する日本語教室の運営とは。社会調査士の資格をお持ちの高畑先生より、ニーズ・レディネス調査のノウハウを実例から学んだ。</p> <p>②青年支援のあり方 課題と取組2016 講師：松本義一氏（NPO法人フィリピンナガイサ副理事長／静岡県立高等学校定時制講師） フィリピンの若者が日本に暮らす上で必要な情報収集や学習はどの身につければよいか。当会の若者クラスの活動から得られたことを公開講座として広く共有する。</p> <p>③『生活者としての外国人』を取り巻く環境を知る ●澤谷智志氏（税理士）「給与明細の見方と年末調整、確定申告」 ●山田博貴氏（弁護士）「外国人の法律問題～司法ソーシャルワークで解決に導く～」</p> <p>※いずれも、外国人からよく受ける相談から内容を構成した。国籍問わず募集を呼び掛けた。</p> <p>※浜松市外国人市民共生審議会と連携を回り、委員（多国籍、10名で構成されている）の方々周知を図った。また、市役所で相談、通訳、翻訳業務にあたる職員にも呼び掛けた。 ・・・浜松市外国人市民共生審議会とは、地域社会の構成員である外国人市民が、市民生活を営む上での諸問題及び日本人と外国人の共生の推進に関し必要な事項について調査審議するため、設置されているものである。</p> <p>④日本語教育の新時代「地域社会をつくる『ことば』の教育とは」 講師：神吉宇一氏（武蔵野学院大学大学院言語文化研究科 教授）</p> <p>多様性を受け入れ、ボーダレスな社会を築くために、外国人が地域の一員として、日本語を使って「できた」「わかった」「参加できた」という全国の取組を紹介。公的な仕組みのもと行われる、今後の地域日本語教室のあり方について考えた。</p>							
	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
	取組による体制整備		<p>フィリピン人をはじめとする「生活者としての外国人」を取り巻く環境を、「バイリンガル指導者を目指す者」「行政」「近隣の関係諸機関」、「地域住民」等に発信する（定住傾向にあるフィリピン人をはじめとする外国人の実情を知ってもらおう）。「フィリピン人について言えば、当該地域で唯一の情報量がある」核となる団体を目指し、それらを活用して近隣の関係団体との連携を促す。</p> <p>なお、本講座は浜松市が行う「外国人市民共生審議会」とも連携を図っていく。</p>							
	取組による日本語能力の向上		<p>「生活者としての外国人」の現状を把握し、支援のあり方を考える取組とする。受講者が、本取組を日本語支援の参考とすることで、学習者の日常生活に即した教室運営、教授につなげていくことを促す。</p>							
	参加対象者		地域住民、行政、企業関係者、近隣の国際交流協会やNPO職員など国籍問わず				参加者数 (内 外国人数)		116人 48(人)	
	広報及び募集方法		<p>当会HP、口コミ、公益財団法人浜松国際交流協会掲示・Facebookなど</p>							
	開催時間数		<p>総時間 10 時間(空白地域 時 間)</p>							
	主な連携・協働先		<p>浜松市国際課、公益財団法人浜松国際交流協会、税理士法人黎明祖父江会計事務所、法テラス浜松、行政書士(村松正利氏、吉橋洋美氏、米倉紀男氏)、弁護士(高貝亮氏)、社会保険労務士(湊健一郎氏)、静岡大学教授(山本崇典氏)、静岡新聞社、浜松日本語学院、ヒューマンアカデミー日本語教師養成課程、静岡県立浜名高等学校(定時制)、静岡県立新居高等学校(定時制)、UBサポート株式会社、静岡県ベトナム人協会等</p>							
開催場所		<p>南部協働センター</p>								
参加者の出身・国別内訳(人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
		3			1	23			21	
		日本国(68名)								

実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名
1	平成28年6月12日 (日) 10:00~12:00	2	南部協働センター	フィリピン2、日本13、ブラジル1、	社会調査の手法から考える「生活者としての外国人」のニーズを基盤とした地域日本語教育の展望	専門的な社会調査の手法に、定住外国人支援活動のヒントがあるか	高畑幸	半場和美
2	平成28年8月28日 (日) 13:30~15:30	2	南部協働センター	フィリピン4、日本4	フィリピン青年支援のあり方 課題と取組 2016	当会で把握している若者支援の課題と取組、事例等を交えて紹介。彼らの置かれている現状と、今後日本社会は彼らをどのように受け入れ、向き合えばよいのかを検討。	松本義一	半場和美
3	平成28年8月3日 (土) 10:00~12:00	2	南部協働センター	フィリピン5、日本5、ブラジル18、中国2	給与明細の見方と年末調整、確定申告	国税と地方税の違い、年末調整と確定申告の違い、扶養控除の改訂部分説明、質疑応答	澤谷智志	半場和美
4	平成28年12月23日 (土) 13:30~15:30	2	南部協働センター	フィリピン6、日本9、ブラジル1、中国1	外国人の法律問題～司法ソーシャルワーク～で解決に導く	交通事故、労働、離婚、在留資格など外国人に多い相談事例を共有する	山田博貴	半場和美
5	平成29年1月29日 (土) 10:00~12:00	2	南部協働センター	フィリピン3、日本18、ブラジル1、	日本語教育の新時代「地域における『ことば』の教育とは」	多様性を受け入れ、ボーダレスな社会を築くために、公的な仕組みのもと行われる、地域日本語教育のあり方について考えた。	神吉宇一	半場和美

(1) 特徴的な活動風景 (2～3回分)

○取組事例①

<p>【第5回 28年12月3日】講師：澤谷智志氏（税理士法人黎明祖父江会計事務所）</p> <p>フィリピン、ブラジル、中国、日本の方が30名参加した。</p> <p>税金の仕組みは「難しい」と思いがちだが、講師より図で説明していただき、とてもよく理解できた。</p> <p>講師からは、「税金は”引かれる”ではなく、“預ける”と考えてください」「きちんと税金を納めると、必要なサービスが受けられます」という話があり、</p> <p>「もし、税金がなかったら社会はどうになってしまうのか」ということについて、グループに分かれて考えた。</p> <p>また、かねてより外国人から質問の多かった「国税と地方税はなぜ2つ納めるのか」ということについても解説があった。</p> <p>それにより、国へ納めた税金は、「国民全体のため」「海外活動」に使われる。地方へ納めた税金は「身近なこと」に使われているということが理解できた。</p> <p>年末調整と確定申告については勤務形態によって、どちらを行うかが分かれるため、実際にいくつかの勤務形態のケースを想定して考察した。</p> <p>こうした皆からよく受ける質問に答えると同時に、新制度「扶養控除を受ける際に提出する書類が今年から変わったこと」を共有した。</p> <p>変更点と、準備しておくものが伝えられた。</p> <p>質疑応答では、次のような質問に講師が回答してくださった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●年末調整の計算を会社が間違えたらどうすればよいか。 ●3つの会社に勤めていて、3つの会社から「年末調整はしない」と言われたまま何年も経っている。自分で確定申告はしているが、このままで良いか。 ●扶養控除を受けるための年齢制限はあるか。 ●扶養控除を受けるための金額の制限はあるか。 <p>今後も、定住外国人の皆様が日本に生活する上でさまざまな福祉サービスを受けられるよう、納税への理解、啓発に努める。</p>
--



○取組事例②

【第5回 29年1月28日】 講師：神吉宇一氏（武蔵野大学大学院言語文化研究科准教授）
講師より、まず今の社会現象、情勢を踏まえて2つのことが話された。
一つ目は日本の人口減少について、「自然に人口減少していくという事態については、歴史上未経験」ということ。
二つ目は、在留外国人数は経済の動きと比例して増えているという事実。つまり、「前例がない事態のところへ外国人が必ず増えていく」ということを、これから私たちは経験していくことになるということ。

今から少しずつ、一人でも多くの定住外国人と日本人とが交流できる場を提供し、互いが拒否しないような未来に向けて準備しておく必要がある。こうした気付きを参加者と共有することができた。このことについて、講師よりいくつか活動の実例のご紹介があった。その中で、本事業取組3についても触れる機会を得た。

最後に講師から、「日本語を教えることから一歩進める必要性」についても話があった。一歩進めると、教えるではなく「学ぶための支援」という視点になるということである。そのために、支援者は目的に沿った仕掛けづくりのためのスキルアップが必要になり、さらには支援者と学習者の関わりを支える行政レベルでのリソースセンターの存在も欠かせない。



(2) 目標の達成状況・成果

・参加者のアンケートを別途提出済
・講座の目的ごとに質問内容を変えて行なった。公開講座の年数を重ねてきたことで、参加者の要望やご意見等を多く広い集めることができた。そうしたお声をもとに広報の工夫をしたり、講座の中身の設定に活かすことができた点は大きな収穫といえる。公開講座を通して、参加者層を開拓できた1年でもあった。

(3) 今後の改善点について

日本語教育の枠を広く捉え、実生活、時流に即したテーマの発掘に今後も努める。参加者への呼びかけは日本語教育関係者のみならず、広く一般市民や国籍問わない外国人の皆様に参加してもらえる工夫をしていく。講師についても様々な分野から招聘し、参加者の興味を惹いていくよう努める。

＜取組5＞										
取組3	取組の名称		定住フィリピン人青年のための日本語教室 取組発表会							
	取組の目標		<ul style="list-style-type: none"> ●「定住フィリピン人青年のための教室」で学んだ成果を発表し、定住フィリピン人青年のレディネス、ニーズ、取組の内容と成果を一般の人々に広く知ってもらうこと。 ●青年たちと日本人が直接、交流を図ること。 							
	取組の内容		<p>取組3の成果発表を青年自らが行う。(定住フィリピン人青年のレディネスとニーズの発表を行う)</p> <p>定住外国人青年の日本語教育支援に関わっている団体や近隣住民に対して一般公開し、「生活者としての外国人青年」の存在を知ってもらった。</p> <p>※外国人生活者が日本で生活する上で必要となるニーズの多様化について考察する機会とした。</p> <p>※参加生徒の日本語学習機会の創出を図った。 グループワークを行うことで、生徒同士の日本語能力のブラッシュアップを行った。</p>							
	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
	取組による体制整備		定住フィリピン人青年のレディネスとニーズを伝え、生活者向け日本語教室で行う内容の幅を広げる。外国人生活者という枠組みの一部分として「定住フィリピン人青年」が存在する。彼らの特徴的なレディネスとニーズを取り上げることで、既存の生活者向け日本語教室で取り上げられていない潜在的ニーズを伝え、生活者向け日本語教室が行う日本語教育の幅を広げた。							
	取組による日本語能力の向上		<ul style="list-style-type: none"> ●日本語での発表の機会を設けることで、教授された内容の復習、発表に必要な日本語の学習などを促す。 ●ポスターに書くときに必要な用語をスマホやタブレットで調べるなど、自律学習を促すきっかけにもつながったことは大きかった。 							
	参加対象者		フィリピンの若者と当該地区の住民(国籍問わず)	参加者数 (内 外国人数)	15人 12(人)					
	広報及び募集方法		ハイスニュース、ナガイサHP、ナガイサ広報誌、磐田国際交流協会広報誌、新聞社							
	開催時間数		総時間2時間(空白地域 時間)							
	主な連携・協働先		NPO法人フィリピンナガイサ主催(浜松市共催)の「ハロハロ教室」ボランティア							
開催場所		ザザシティ浜松								
参加者の出身・ 国別内訳 (人数)		中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル	
		日本国(3名)					12			
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名		
1	平成28年12月17日 (土) 10:00~1	2	ザザシティ浜松	6	取組5「定住フィリピン人青年のための日本語教室 取組発表会」	①「旅行計画を立てよう」のポスター発表	松本義一	高井マリ		

(1) 特徴的な活動風景(2~3回分) ※2回分を詳細に記載。また、活動内容を示す写真を本報告書に添付

○取組事例①

【第1回 平成28年12月17日】

取組3の11月・12月のテーマである「旅行計画を立てよう」の中で作成したポスターを使い、日本語でのプレゼンテーションを実施した。旅行したい場所ごとにグループに分かれ、「行き先」、「アクセス方法」、「オススメの観光地・食事・アクティビティ」、「日程」、「費用」について記したポスターを作成し、各グループで各自の発表箇所を定め発表をした。当会のイベントと同じ日に実施したことで大勢の人の前で発表する機会となり、日本語で伝える経験を積むことができた。



(2) 目標の達成状況・成果 ※検証方法(アンケートや評価等)も含めて具体的に記載すること。

「定住フィリピン人青年の存在を広く知ってもらう」ということを目標として実施した。当会の「クリスマスイベント」開催前の時間に行うことで80名を越す人々の前で発表会を実施できた。日頃会うことがない日本人ボランティアの方々や関係者と接する機会となり、目標を達成できた。また、取組3での活動も知ってもらう良い機会となり、日本人支援者には、「日本で生活する上で必要な日本語教育とは何か」を考える機会も提供できた。

(3) 今後の改善点について ※取組の内容や実施体制などについて改善すべき点を具体的に記載すること。

実施体制での改善点としては、クリスマス前の12月17日開催であったため、ポスター発表時に定住フィリピン人青年の多くがフィリピンに一時帰国してしまった。日にちが合わずポスター発表に参加できた人数が6名であった。多くの人の前で実施するためにあえてクリスマス会開催日と同日開催としたが、今後はこの点を検討していきたい。取組内容としては、ポスター発表のプレゼンテーションを分業制としたため、一人一人の発表時間が短く、物足りなさを感じた生徒もいた。日本語力にバラツキがあるので、全ての生徒が満足いく発表の仕方を提案できるように今後準備をしていきたい。

＜取組6＞										
取組6	取組の名称	フィリピンをはじめとする「定住外国人青年の教育支援のあり方、将来を考える」会								
	取組の目標	地域で定住外国人青年の教育支援に関わる支援者に対して、先進地域での定住外国人青年支援の事例を紹介し、今後の定住外国人青年への教育支援のあり方について学ぶことを通し、今後の支援の展望を描く。								
	取組の内容	<p>定住外国人青年の教育支援では日本語教育+彼らが日本で生活をスタートさせるための支援が必要である。既存の定住外国人青年への日本語教室にどういった視点を加えて、日本語教室を行うことが彼らの将来のためになるのかを考えるための取組を実施した。</p> <p>①10月1日(土)山脇啓造氏…3時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ●将来の日本で外国人生活者が担う役割と外国人生活者への政策 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の人口減少を補う存在としての外国人生活者。 ・日本における各自治体の取組。 ●欧米における移民支援、政策 <ul style="list-style-type: none"> ・先進地域から移民青年への教育支援の実例を学ぶ。 ●グループワーク、議論、発表 <ul style="list-style-type: none"> ・今後、外国人は増えてほしいか、減ってほしいか、現状維持がよいか。 ・今の現場で感じていること <p>②2月11日(土)村松正利氏(行政書士)／松本義一(NPO法人フィリピンナガイサ副理事長)…3時間</p> <p>当該地域における定住外国人青年支援の状況と課題、将来の展望。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●行政書士、村松氏より「定住外国人」を支援で受け入れる際に把握しておくべき個人情報と管理の在り方。 ●松本義一氏より、フィリピン人青年支援の現状と受け入れのあり方。 								
		空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	取組による体制整備	既存の日本語教室へ「定住外国人青年」という新しいカテゴリーの意識付けを行い、定住外国人青年の教育支援のために、日本語教育+αの「α」の部分について考えていく機会とする。								
	取組による日本語能力の向上									
	参加対象者	フィリピンをはじめとする外国にルーツを持つ若者支援に携わっている方	参加者数 (内 外国人数)	32人 10(人)						
	広報及び募集方法	口コミ、当会HP、HICEのFacebookや掲示、U-TOCへの声かけ								
	開催時間数	総時間 6 時間(空白地域 時間)								
	主な連携・協働先	浜松市外国人学習支援センター(U-TOC)、シンエイランド保育園、静岡県立浜名高等学校(定時制)、静岡県立新居高等学校(定時制)、私立オイスカ高校日本語教育課程、行政書士村松正利氏								
開催場所	南部協働センター									
参加者の出身・国別内訳(人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル		
	日本国22人									
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名		
1	平成28年10月1日 (土) 13:30 ～16:30	3	南部協働センター	フィリピン人3、日本人19、韓国人1	多文化教育の新時代	日本の自治体による外国人施策の歴史、欧米の移民政策、グループディスカッション	山脇啓造	松本義一		
2	平成29年2月11日 (土) 13:00 ～16:00	3	南部協働センター	フィリピン人6人、日本人3人	フィリピン人青年を支援、受け入れる際に気を付けること	若者の進路、進学支援に必要な情報把握と、得た個人情報の管理について	村松正利、松本義一	松本義一		

(1) 特徴的な活動風景 (2～3回分)

※2回分を詳細に記載。また、活動内容を示す写真を本報告書に添付

○取組事例①

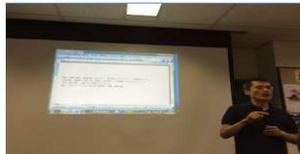
【第1回 28年10月1日】 講師：山脇啓造氏（明治大学国際関係学部教授）
前半は講師より、下記取組の変遷についてご教示いただいた。

- 自治体の多文化共生の取組
- 国の取組
- 文科省の取組
- ロサンゼルス市の取組

後半は次の3つについて、グループディスカッションを行った。

「今後、外国人住民は増？維持？減？自分の予想とその根拠は？」
「今後、外国人が増えてほしいか、維持か、減ってほしいか。自分の考え」
「今、携わっている現場で感じていること」

ディスカッションを通して、一人では思いつかない視点がたくさんあり、多文化共生社会の中で期待される学校教育のあり方を多角的に捉えることができた。



○取組事例②

【第2回 28年2月11日】
青年の受け入れ、進路支援するにあたり把握しておきたい基本情報について行政書士に指導をおおぐ。出身地域の把握は、言語や教育の背景を知るうえで必要であること。ほかに家族構成、在留資格の種類、番号、期限なども把握しておくことも大切である。これまで今後の進路を決めてサポートしていても、途中で突然帰国をする若者に何度か出会った。日本語や学習能力の把握と同時に個々人と保護者の背景を抑えて的確にアドバイスする必要がある。（詳細は別紙参照）

(2) 目標の達成状況・成果 ※検証方法（アンケートや評価等）も含めて具体的に記載すること。

別途提出済

(3) 今後の改善点について ※取組の内容や実施体制などについて改善すべき点を具体的に記載すること。

取組6のテーマに即した講座を提供できた。しかしながら、定住外国人青年はフィリピン以外にも大勢いる中で、参加者比率が日本人とフィリピン人で大半を占めていた。今後は、ブラジルやペルー、ベトナムなどの国籍の人々や他の国の青年を支援している人々に広く広報し、参加へと繋げていきたい。

＜取組7＞										
取組7	取組の名称	日本語教室＋生活情報提供で「わかった、できた」へ								
	取組の目標	①教室での臨場感あふれる体験を通して、実生活でも「使える、できる」内容とする。 ②連携先機関と交流を図り、「在住外国人の特性や取り巻く環境」に理解を深めてもらう。 ③近隣住民も参加しやすいテーマを取り扱い、交流を図り、「在住外国人の特性や取り巻く環境」に理解を深めてもらう。								
	取組の内容	本取組を受講する学習者が学びたい内容を取り上げた ●警察署…「110番通報練習」「生活安全」「交通安全」/自転車シミュレータを用いて。 ●外国人の法律問題に関する情報提供、それに付随する日本語 ●社会保険の情報提供、それに付随する日本語								
	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
	取組による体制整備	関係機関へゲスト講師として依頼する。定住フィリピン人の来日背景、生活の実情、特性を知ってもらう機会提供する。								
	取組による日本語能力の向上	実生活において、日本語がわからないことが原因で困っていることを解決する。日本人と交流を図り、日本語を運用する機会を得る。								
	参加対象者	日本語能力が入門・初級の定住フィリピン人、地域住民	参加者数 (内 外国人数)	64人 51(人)						
	広報及び募集方法	口コミ、当会HP掲載								
	開催時間数	総時間12 時間(空白地域 時間)								
	主な連携・協働先	有限会社伸栄総合サービス、法テラス浜松、静岡県警察浜北警察署								
開催場所	南部協働センター									
参加者の出身・ 国別内訳 (人数)	中国	ベトナム	ネパール	韓国	フィリピン	インドネシア	タイ	ブラジル		
						51				
日本国13名										
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組テーマ	内容	指導者名	補助者名		
1	平成28年8月7日 (日) 13:30 ～16:30	3	浜名協働センター	フィリピン人15、日本人4	交通安全指導、生活安全指導	自転車のシミュレータを使って	鈴木エバ 浜北警察署	高井マリ 半場和美		
2	平成28年9月4日 (日) 13:30 ～16:30	3	浜名協働センター	フィリピン人8、日本人3	社会保険	外国人から多い相談をもとに	鈴木エバ 菊池正義	高井マリ 半場和美		
3	平成28年9月18日 (日) 13:30 ～15:30	3	浜名協働センター	フィリピン人17、日本人1	外国人の法律問題	外国人から多い相談をもとに	鈴木エバ 山田博貴	高井マリ 半場和美		
4	平成29年2月5日 (日) 13:30 ～16:30	3	長上協働センター	フィリピン人11、日本人5	社会保険について	外国人から多い相談をもとに、新制度について	鈴木エバ 菊池正義	高井マリ 半場和美		

(1) 特徴的な活動風景 (2～3回分)

○取組事例①

【第1回 28年8月7日】
夏休みのため、親子で参加できる「交通安全」について学習をした。前半、指導員の方がパワーポイントを作成して来てくださった。資料はイラストレーションを用いて動きが大変わかりやすかった。
次に自転車シミュレーター体験を通して、実際の道路をイメージした通行練習をした。体験は一人ずつだが、皆で大画面を使って共有できるのが、このシミュレーターの特徴である。体験ごとに、指導員からその場でアドバイスを受けた。夜間は目立つ格好をして歩行、自転車に乗ることという助言もあった。夜間光るグッズは百円均一にも売っているとのことだった。

「防犯登録」について。本来、自転車販売店で登録される。定住外国人によくあるケースとして、この自転車を引越しや帰国のタイミングで友人に譲り渡すというケースがあるようだ。このとき、登録者が前の人になったまま乗り続けていると「盗難車両と誤解される」ということがあるとのこと。

購入した店のレシート、もしくは保証書を保管し、それも次に譲り渡す人にいっしょに渡すこと。次に乗る人は販売店へ行って、登録変更の手続きをしないといけないそうである。あまり知られていない点なので、みなで声をかけあうことが話された。



○取組事例②

【第3回 28年9月18日】
このクラスの学習者は、工場に勤める人が多い。そこで、「フィリピン人労働者が抱える法律問題（離婚、交通事故、労働環境、在留資格、借金など）」と題して、弁護士の先生から学んだ。「外国人からよく受ける法律相談」について、「みんなだったら、どのように解決するか」をグループで話しあった。

その後、先生からわかりやすく解説を加えていただいた。



(2) 目標の達成状況・成果

9月18日の「外国人の抱える法律問題」について報告したところ、内容に評価を得た。そこで急きょ公開講座に取り上げ、同テーマでの広がりを試みた。結果、ブラジル、中国、日本の方にも参加いただけた。

(3) 今後の改善点について

ゲスト回は難しいテーマを取り扱うことも多いので、綿密な打ち合わせと資料の通訳、翻訳が必要になる。わかりやすく伝えるためにどうしたらよいか、バイリンガル講師にとっても伝え方を工夫する必要がある。学習者の声を身近に拾えるのがこのクラスの特徴となるので、今後も生活に身近なテーマと要望に耳を傾けるよう心掛ける。そして、ここで得られた内容のうち広く展開できるものについても検討していく。その意味ではトライアルな場として、テーマも広がりを持って取り扱いたい。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

- ① 散在している地域の課題に対して、日本語教育体制の整備に資する人材を「発掘」し、「育成」「確保」へ繋げる。受講者は国籍を問わず、要望があれば受け入れ、地域で活躍できるバイリンガル人材をフィリピン人以外にも輩出すること。(取組1)
- ② フィリピン人が多く暮らす地区において、「座学+α」の付加価値を付けた日本語教室を開催すること。(取組2, 7)
- ③ 「生活者として」の新しい層であるフィリピン人青年(以下、定住フィリピン人青年)の将来を見据えた支援を行うこと。(取組3, 5)
- ④ これまで連携してきた人や機関と協働し、培ってきたノウハウを地域に発信し、還元すること。(取組4, 6)
- ⑤ 時流の中で求められる「生活者としての外国人」を取り巻く課題について対応するため、事業費の安定的な確保を検討していくこと。(全取組、運営委員会)

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果 ※3つの取組を通して得られた成果について検証方法も含めて

.

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

文化庁事業をはじめとする諸事業の実施により、本地域において「フィリピンに関することと言えばフィリピンナガイサ」ということが根付き始めている。フィリピン人に限らず様々な機関（日本社会）からも連絡をいただく機会が増えた。その意味で、フィリピン人コミュニティを軸にしたネットワークが新たに生まれている。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

- ・公開講座や教室への参加、周知…当会ホームページ、近隣の国際交流協会のfacebookや一斉メールへの協力依頼、浜松市外国人市民共生審議会への呼びかけ（協力:浜松市）、当会スタッフによる口コミなど。
- ・活動の周知（報告）について…おもに当会のホームページを活用して、活動の発信を図った。

(6) 改善点、今後の課題について

コミュニティにおける通訳としての役目以上の能力や対応を求められる生活相談に対応する人材の確保と育成について。すでに現場で活躍している人材は掛け持ちをしているので、教室に通ってブラッシュアップする時間がない。今後も関係諸機関とともに検討していきたいと考える。

(7) その他参考資料